「研究部会」の取り組み

神原中：新垣頼子、福里祥代、津波古寿美、
宜次次力、澤岻優子、日高純里、
安次嶺和子、仲里肇洋、比嘉かおり、
遠藤大輔、大川哲史
神原小：大城まゆみ、佐事修、工藤直也、砂川瞳
石川ひとみ、、河辺志保、高良真利恵
壷屋小：小橋川共啓、伊計義冶、内間清香

１．取り組みの趣旨

研究部は「小学校から中学校までの学びの連続性」に視点を当て、下記の２点をねらいとした。

(1)連続性を生かす指導方法の工夫を行い授業改善を目指す。

(2)小学校・中学校の授業を見合うことでお互いを理解するとともに、児童生徒の発達段階を踏まえた指導に生かす。

以上のねらいを踏まえ、「ノート指導の工夫」「乗り入れ授業」「合同研修会」（３校合同の授業研究会）を実施し、統一テーマである「自ら考える力を育て社会性を身につけた児童生徒の育成」を目指す。

２．実践内容

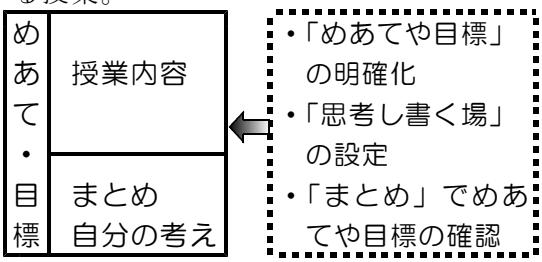
(1)ノート指導の工夫

研究部会では、小中統一テーマ「思考力・判断力・表現力を育てるノート指導の工夫」を設定し、小１から中３までのすべての教科で書く活動を重視した研究に取り組んでいる。３校の確認事項は以下の３点である。

①全教科で「書く」を意識した授業。

②市販されている研究会のノート使用の際も児童生徒がその時間の学びを書くことができる授業。

③まとめを自分の考えや自分の言葉で書ける授業。



書く活動を通して思考力・判断力・表現力を高めていこうと考えている。

＜ノート指導資料＞　　資料編参照

ノート指導について

ノートには、「思考を整理し、深める」「理解を確実にし、技能を定着させる」などの機能がある。

言語は知的活動の基盤となる。言葉や図や式などで考えを表現する活動を充実させることは、よりよく考える子どもを育てることにつながる。

また、言語は、コミュニケーションや感性、情緒の基盤ともなるため、人間形成の上からも大切にしていく必要がある。子ども達のノートが充実することは、平成２０年版学習指導要領の趣旨の実現につながると考える。

ノートに書くことには、学習者である児童の側と指導者である教師の側の両面から、次の意義や役割を挙げることができる。

１　児童にとっての意義や役割

（１）学習の質の向上

①学習課題について理解し、自分の考えをもつ。

②話し合いの学習に参加する自信と見通しを持つ

③学習内容や思考を整理し、理解を深める。

④習得した知識や技能の定着をより確かなものにする。

（２）学習態度の育成

①自分の学習態度を振り返る態度や自己評価する能力を育てる。

②主体的な学習の仕方を身につける。

２　教師にとっての意義や役割

（１）学習の成立と学力の保障

①一人一人の児童の学習を成立させるための手立てとする。

②朱書きにより、個別の指導や意欲付けができる。

（２）学習指導の改善

①一人一人の学習状況を捉えることができる

②学習指導を改善するための情報を得ることができる。

全体研修会の中で、小学校、中学校の児童生徒のノートを持ち寄り、情報交換、理論研修等を行い、ノート指導を通した授業改善に積極的に取り組んでいる。

（2）乗り入れ授業

今年度は、乗り入れ授業の「ねらい」「タイプ」を以下のように確認した。

平成 24 年度相互乗り入れ授業の方針（概要）

1．ねらい：お互いにお互いを知る

（1）教師側から

・小中学校の児童生徒の様子を知る

・小中学校の指導方法を知る

（2）児童生徒側から

・中学校の先生に慣れ親しむ

・小学校の先生とつながっていることを感じ取る

2．相互乗り入れ授業の方法

（1）乗り入れ授業Ⅰ　（計画書㊟）

→年間を通して中学校教師が小学校で授業を行う。

（2）乗り入れ授業Ⅱ　（計画書㊟）

→中学校の教師が専門知識を生かした授業を小学校で行う。

（3）乗り入れ授業Ⅲ

→小中の教師が時間の調整を行った上で T2 で入る。

①乗り入れ授業Ⅰの実践例

コーディネーターを中学校に配置し（加配）そのコーディネーターが年間を通して小学校で授業を行う。

今年度は、６年生の理科で行った。

壺屋小　６年　理科に神原中教諭

○神原中学校教諭による乗り入れ授業の様子である。次年度も中学校の理科の授業でお世話になります。

②乗り入れ授業Ⅱの実践例

小学校の教師側からの要望により、中学校の教師が乗り入れ授業を行う。また、その逆の形もある。授業内容を計画し、コーディネーターを通して日程調整を行い、その後、担当教諭による打ち合わせ、授業実施となる。

今年度は、単発の形で入ってもらう授業を行った。

壺屋小　６年　体育に神原中教諭

【児童の感想】

・バトンパスをうまくする方法を中学のかおり先生とたいほう先生が教えて下さいました。バトンパスのコツは４つあります。

このコツをうまくいかして、運動会で最高のプレーをしたいです。（小６　女子）

・５校時に体育の授業があり、神原中学校の体育の先生がきていました。バトンパスの練習をしました。とてもわかりやすかったです。

（小６　女子）

③乗り入れ授業Ⅲの実践例

小学校の教師が専科の入っている時間を利用して、中学のクラスに T2 で入る。教科や入る時間は調整するが、基本的には T2 なので各教科可能である。「教師がお互いを知り、指導力の向上を目指す」ために、進めていきたい乗り入れ授業のタイプである。

神原中　３年　英語に神原小教諭

○中学校の英語の時間で取り組んでいるポスターづくりの単元に、小学校の図画工作の担当がＴ２ではいった。

神原中　３年　社会科に壺屋小教諭

【生徒の感想】

・　小学校の話を聞いて楽しかったし、授業に真剣に取り組むことができた。
　また、先生が二人いるのでやりやすかったし、スムーズに進んだ。小中一貫というのをやって、色々と良かったと思います。（中３　男子）

・　今まで何の違和感もなく、普通に習っていた物が小学生にとって、とても疑問になるんだと思って、やっぱり小学生の意欲はすごいと思いました。（中３　女子）

神原中１年　体育に神原小教諭

【教師の感想】

今回の乗り入れ授業を通して、小学校から進学してきたばかりの１年生においては、生徒の特徴を細かく把握することに時間がかかるので、小学校の教諭による生徒への声かけや励まし、技術的な支援があると生徒理解が非常にスムーズに行えると思った。

（中学校　保健体育教諭）

【生徒の感想】

・体育の授業でリレーの走り始めの姿勢などが分からなかった時、分かりやすく身ぶりを使って教えていた。また、はげましたりもしていた。小学校の頃からの先生なので、普通より親しみがあった。（中１　女子）

（３）合同研修会・合同授業研究会

３校の職員が一同に会し、小中一貫教育の実践について研究を深める事を目的に合同研修会を実施した。

また、教師の指導力を目指し、合同授業研究会を３校輪番で行った。授業後の研究会では、ワークショップ型のグループ討議を行い「ノート指導の工夫」等、共通の視点で話し合いを行った。

＜合同研修会＞

活　動　名	月　日	内　　容
第１回合同研修会 神原中	5/14	・３校職員顔合わせ ・研究の方向性について確認，具体的取り組み事項についての検討
第２回合同研修会 神原小研修室	7/27	・構成的グループエンカウンター
第３回合同研修会 神原小研修室	7/30	・神原中校区小中一貫教育について確認 ・アンケートの分析報告
第４回合同研修会 神原小研修室	7/30	・ノート指導の具体的取組取（事例報告・検討）
第５回合同研修会 神原小研修室	10/10	・京都産業大学文化部 教授：西川信廣氏講演 「小中一貫教育の理論と方法」
那覇市主催講演会 パレット市民劇場	11/12	・千葉大学 教授：天笠 茂氏講演 「授業交流を通して小中一貫教育を」
第６回合同研修会 神原小研修室	12/10	・中間報告会 今年度取組のまとめ
第７回合同研修会 （予定）	2/ 8	・今年度のまとめと次年度に向けて
モデル校発表会 （予定）	2/14	・神原中校区小中一貫教育モデル校１年次発表

＜合同授業研究会＞

活　動　名	月　日	内　　容
第１回授業研究会	9/24	神原中：理科
第２回授業研究会	11/19	神原小：社会
第３回授業研究会	11/30	壺屋小：算数

今年度の合同研修会では、各部の実践報告、講師を招聘して行う研修を行う事ができた。これまで実践してきた小中一貫教育の方向性を振り返るよい機会となった。

＜**合同研修会**＞

第２回

「構成的グループエンカウンター」

講師：上級教育ｶｳﾝｾﾗｰ　仲村将義氏

○緊張していた表情は、研修が進むにつれて笑顔へ

第３回

「各部の経過報告」

①コーディネーターによる、児童・生徒のアンケート結果についての説明

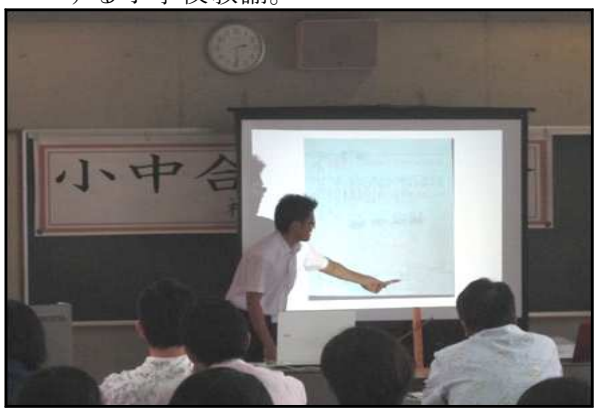
○児童生徒・教師の意識のあり方をお互いで確認する事ができた。

②研究部

研究部員は、「合同研修会」「ノート指導の工夫」「乗り入れ授業」の３つの班に分かれ、それぞれの担当が具体的な方向性を提案し実践へ結びつけていく推進力となっている。

・「ノート指導について」内容確認する研究部主任。

・「ノート指導について」実践事例を発表する小学校教諭。



・「乗り入れ授業」に関する事項を説明する担当教諭

○乗り入れ授業の調整に必要なシートを作成しました。

③各部会の報告終了後、４つの部会に分かれて行われた話し合い

○これまでの実践を踏まえ、１学期後半、２学期に取り組む実践内容の確認を小中の教師が合同で行ないました。

第５回
演題：「小中一貫教育の理論と方法」
講師：京都産業大学文化部教授　西川信廣氏

＜那覇市主催　講演会＞
演題：「授業交流を通して小中一貫教育を」
講師：千葉大学教授　天笠 茂氏

＜３校合同授業研究会＞
第１回　３校合同授業研究会
神原中学校　中学１年　理科

○神原中学校授業研を参観する３校の教諭。この後、６斑に分かれてワークショップ型の授業研究会を行いました。

第２回　３校合同授業研究会
神原小学校　小学校５年　社会

○琉球大学教育学部教授の加藤好一先生をお迎えして、今、学習している学びが中学校とどのような関連があるかを踏まえて指導助言をいただきました。

○ワークショップ型のグループ討議を行う３校教諭

第３回　３校合同授業研究会
壺屋小学校　６年「算数」

○参観者が７０名をこえることから、体育館での授業研究会となりました。

３．成果と課題

(1)共通実践テーマ

○ 生徒が意欲的に創意工夫してノートをまとめ、意識して自分の考えや友だちの考えを書くようになった。

○ ノートのまとめを通して、授業と連動した家庭学習ができるようになった。

○ 各教科で共通実践ができた。

○ 板書計画を中心に教材研究をするようになった。また、「ふり返る」ことを意識した板書計画（めあて→まとめ）が実践できるようになった。

● ノート指導を児童生徒にうまく書かせるようにすることは、我々教師の「板書」技術などを高める必要がある。そういう技術を高めるような研修をしたい。

●「何を」「どのように書かせるのか」という点で授業改善がさらに大切である。

● 上手にまとめられているノートを紹介し共有させることに取り組みたい。（電子黒板の活用）

(2)乗り入れ授業

○ 次年度は新入生に対し、本年度把握した小学６年の生徒の実態を念頭に置いて、生徒理解を根底に置いた学習指導ができる。

○ 小学校の先生と共に、指導案を練り実践につなげることができた。

○ 中学校での授業が丁寧になった。

○ 中学校の先生が授業を行うことにより、小学校は中学校生活や中学校の教師に対するイメージを持つことができた。

○ 算数科については、少人数指導（習熟度別）ができ、毎時間の学習を通して、児童とのコミュニケーションがとれている。(算数を楽しみにしている。)

○ 中学校の専門を生かしてもらいながらの授業は、子どもの興味関心を高めるのにとても良かった。

● 現在目の前にいる小学６年生の生徒の実態を十分掌握していない中学校の先生による乗り入れ授業では、小６の児童の発達段階に即した授業展開をするのは難しい。

● 教材研究の時間を確保していくための方策を考える。

● 小学校の先生が中学校で授業するのは、生徒理解につながりはするが、中学生にとってどんなメリットがあるか、まだわからない。

(3)合同研修会

○ 小学校の授業を参観して、小学校で行われている授業の実態把握が容易になり、小学校から中学への学習のつなぎがスムーズになる。

○ 入学する新入生に対する情報を共有することによって、生徒理解を深めることができた。

○ 授業参観はもちろんのこと、授業研究会もグループに分かれて熱心に協議できたことは良かった。

○ 子どもの発達の違いから、小中の教師の考え方にもおのずとちがいが出てくるのが分かった。また、小中の文化の違いにふれられたのは良かった。

● 小中の系統を見据えた授業展開を行う。

● お互いの立場はちがうので、大きな目標のもと、共に同じ内容で取り組むものと、子どもの成長に合わせて形を変えて取り組むものを理解することが必要である。

● 部会で決定した方針や内容を部会のメンバーに伝達するための手段を考える。また、各学校での取り組みがタイムリーに伝えられる体制を整える。